

## 編集後記

浅沼 知行

(紀要編集会議 座長)

『神奈川県立図書館紀要』第10号の編集を終え、皆様にお届けすることができることになりました。

この第10号の編集に当たっては、従来の当館紀要の伝統を踏まえながらも、県立の図書館をこれまで以上に県民の皆様を知っていただき、利用していただく便としたいとの考えで編集しました。それは第1に、県立の図書館の最近の特色ある取り組みを紹介すること、第2に、県立の図書館が所蔵する資料の中から、一定のまとまりのあるコレクションや地域資料を紹介して、その魅力を伝えること、第3に、第9号発刊直後に発生した東日本大震災における図書館の取り組みを振り返り、今後の取り組みに資する考察をすること、第4に、第9号で初めて実施した県立川崎図書館との共同の取り組みを継続することでした。こうした方針のもとで、県立の両館の職員が分担して執筆することとしました。

具体的な内容は巻頭の目次のとおりですが、第1の最近の取り組み事例として、県立図書館と県立高等学校との連携について取り上げました。そして県立の高等学校と県立の図書館の間だけではなく、県立高等学校相互の間で協力し合えるシステムを開発した背景と経緯や課題を解決した経験などを紹介しました。第2の県立の図書館が所蔵している資料の魅力を紹介する分野では、これまで紹介する機会のなかった資料群の中から、①雑誌創刊号コレクション、②大学紀要コレクション、③唱歌集コレクションを取り上げて紹介し、また、④地域資料から飯田九一コレクション等を踏まえた神奈川地域の江戸時代以降の俳人とその活動を紹介することとしました。⑤県立川崎図書館については、同館が多数所蔵している「規格」に関する資料を紹介しています。第3の東日本大震災の際の図書館の取り組みの関係では、大震災以来積極的に被災地を訪問したり、県内外の取り組みを調

べてきた職員が執筆を担当しました。

ところで、当館の紀要の発行は2年ぶりですが、その間、「紀要」という形ではありませんが、県立両館の職員の研鑽の成果として、平成23年度に「社史と伝記にみる日本の実業家——人物データと文献案内——」を発刊しました。この冊子は県立の両図書館が豊富に所蔵する社史や伝記などの資料をもとに、日本の代表的な実業家を列伝風に紹介し、各人物について文献目録を作成したものです。特定テーマで資料の目録を作成するという図書館の持っている役割をとおして、「知の編集」というもう一つの役割の発揮に取り組んだものです。幸い有償頒布分もご好評をいただいております、職員への励ましと感謝しています。こうした日常の研鑽をとおして当館が所蔵する資料を熟知し、その魅力と活用例を伝える努力は、資料の収集・整備・保存・提供を任務とする図書館の職員の責務であり、誇りでもあります。今後とも、紀要という形だけでなく、時宜に応じて発信していければ幸いです。

今回の紀要の編集が大詰めに差し掛かった平成24年12月19日付けで、全国の図書館運営の基本である「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が、平成13年に告示されて以来初めて全部改正されました。新しい基準においても、都道府県立図書館については、域内の図書館への支援の役割が位置付けられているほか、施設・設備、調査研究、図書館資料、職員など、これまでと同様に幅広い分野にわたって高く期待されています。県立図書館においても、新しい基準の考え方を踏まえてさらに研鑽を積み、今後の紀要等で報告してまいりたいと思います。

最後に、紀要第10号の執筆を担当した職員各位の日ごろの研鑽に改めて敬意を表しますとともに、読者、関係者の皆様から引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。